

「人への投資」の元祖 福井県

～新福井型人材育成モデル2案の実証～

福井経済同友会
人づくり委員会 活動報告書

2023年3月23日

目次

I. はじめに	1
II. 「社員交流小委員会」報告書	
(1) 経緯と社員交流会の概要	2
(2) 交流会での取り組み 議論とプレゼンテーション	4
(3) 参加者からの感想、アンケート	6
(4) 委員会での感想	7
(5) 終わりに 示唆と反省	8
III. 「Fターン小委員会」報告書	
(1) 現状の把握と課題の抽出	10
(2) 課題解決のための事業の骨子	10
(3) 実施した事業の概要	12
(4) 社会人アンケートの要旨と分析	12
(5) 学生アンケートの要旨と分析	13
(6) 考察	17
(7) 今後の展望	19
IV. 人づくり委員会活動経過	40
V. おわりに	45

I. はじめに

モノからコトへと進む時代、人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営「人的資本経営」が重要だと言われる。

福井経済同友会では、以前より人を育てる風土こそ福井県に必要なことだと「人づくり委員会」を作り積極的な活動を行ってきた。

昨年までは、若手教員が県内企業を訪問し経営者や社員と意見交換を行う「若大海^{*1}」の取り組みを行い学びの機会を提供してきた。

そして、2021年からの新生「人づくり委員会」としては、企業の人づくりにおいて、リーダーシップやイノベーションの素養を磨く人材育成や、担い手を確保するためのU・Iターン人口の増加が重要な課題だとして、会員企業の若手社員が交流する場を提供し教育の一助とする「社員交流小委員会」とUターンIターンを促進するための取り組みを考える「Fターン（FUKUIへターンするの意）小委員会」の2つの小委員会を組成し積極的な活動を行った。

2024年3月北陸新幹線が敦賀まで延伸する。今後、福井県への注目度は増すばかりだ。2012年から5回連続「幸福度日本一」^{*2}でもある福井県。安定した雇用や共働きを支える環境が、子どもたちの成長にも大きく寄与している。まさに「人への投資」の元祖福井県。

今回の2つの取り組みが、新たな人材育成モデル構築のきっかけとなれば幸いである。

福井経済同友会 人づくり委員会

委員長 有馬 浩史

※1 経営者が若手教員の企業視察を受け入れる研修。教員・経営者・社員の双方向のコミュニケーションを図り、企業の正しい理解とアントレプレナーシップや地域アイデンティティの育成に取り組んできた。

※2 幸福度ランキングとは一般財団法人日本総合研究所が「全47都道府県幸福度ランキング」として発表。人口増加率などの基本指標と、分野別指標（健康、文化、仕事、生活、教育）など全80指標により都道府県の幸福度を算出している。

Ⅱ. 「社員交流小委員会」報告書

人づくり委員会副委員長 竹村 浩和

当報告書は、会員企業の社員への学習機会を提供する当委員会の取り組み内容を報告するものである。主な取り組みは、当会員企業の20代の若手社員を集めて意見交換を始めとした懇談会を開催することである。3回開催した懇談会では、意見交換と発表、その振り返りを通じて若手社員同士が交流を行った。その経緯と内容を以下に報告する。

(1) 経緯と社員交流会の概要

2022年6月1日を皮切りとして、委員長をはじめとした10名の委員会メンバーで社員交流会の企画会議2時間を計8回行った。

企画会議では、若手社員の交流の場を提供する機会として3回の懇談会開催を決定した。新型コロナウイルス感染症の流行が小康状態である期間に、社員の成長に繋がり、また福井を知る機会にもなり意義が大きいという議論から当該交流会を実施する判断となった。当該交流会の概要については以下の通り。

① 社員交流会の概要

内 容：チームでテーマを決め、議論し発表する

対象者：委員会の会員企業等の30歳未満の社員

人 数：15社各社から各社1、2名で計21名

1チーム5、6名でA、B、C、Dの4チームを編成

日 時：2時間の会議を計3回、4/5、5/17、6/14に開催

② 各回の取り組み

(第1回) 4月5日(火) 15:00~17:00 福井パレスホテル 鳳凰の間
4グループに分かれ、参加者が各自持参の資料によって、自己紹介と自社企業のプレゼンテーション(10分)を実施。各々のグループで次回以降の交流会で取り組むテーマを決める。発表までの工程や各自の役割を決める。終了後、グループ毎に懇親会を開催。



チームに分かれ議論をスタート。密になることを回避。

(第2回) 5月17日(火) 15:00~17:00 織協ビル 602号室
決めたテーマについて、発表できるレベルにまで議論を深める。6/14の発表までに、プレゼンテーション資料の作成や発表の役割分担を決める。終了後、グループ毎に懇親会を開催。

(第3回) 6月14日(火) 15:00~17:00 織協ビル10階ホール
グループ毎に話し合ったテーマについて全体発表を実施。参加者との質疑応答。優勝チームの発表。グループでの3回の会議の過程や結果に対する振り返り。全体で懇親会を開催。



優勝チームC班の発表状況 「従業員幸福度を高めるために必要なことは？」

(2) 交流会での取り組み 議論とプレゼンテーション

4グループ (A, B, C, D) のプレゼンテーション (以下プレゼン) の内容は以下の通り。

※プレゼンの内容については、各グループが作成したパワーポイントの文言をそのまま使用している。

① プレゼンの内容

A 「福井の若者を元気にするためには」

どうしたら若者が元気に週明けを迎えられるか、福井で何があれば活気がでるのか？に関心がありテーマを設定した。人が集まる場所が少ないために活気がないように見える。若者の数は将来的にも減少していくことが想定される中、交通手段が限定される等の理由により、出かけることへのハードルが高い。解決策として、福井駅前にチアホールを作ることで、駅前に若者が集まるようにする。「チアリーディングを中心とした、毎週末に若者が集まるイベントを開催する」ことを提案する。

B 「理想の社会のために私たちができること」

テーマ設定の理由は、若い世代の離職率の高さ、世代間ギャップ等が自分達の理想に対しての課題と認識したため。テーマを、①福利厚生②風通しの良い

職場③社員育成の切り口から検討した。福利厚生においては、自分たちの後輩が制度を使いやすくするために、制度の把握や周知に努め、自ら率先して使用する。風通しのよい職場のためには、嫌な緊張感を生まず、のびのびと仕事が出来る環境へ、報連相をしやすくすることで仕事の質を高める。先輩や後輩、他部署関係なく、積極的なコミュニケーションをとる。話を聞くときは手を止めて、相手の話を聞く姿勢を意識し、時には雑談を持ち掛ける。社員育成においては、後輩に頼られる存在になることで後輩の力を伸ばし、教えることで自分も成長していくWIN-WINの関係性を作る。

C 「従業員幸福度を高めるために必要なことは？」

日本総研の調べによると、福井県は4回連続幸福度ランキング1位。私たちは働いている上でどのようなことに幸せを感じているか？サンキュカードをもらい、自分を見ていてくれる人がいると感じられるとき、言い換えると感謝が言語化されているとき。お客様から頑張っているねと言われてたり、会社のメンバーから褒められたり、成果が評価に反映されていると感じるとき。自身の強みが活かせる自由度があるとき。さらに福井の幸福度を高めるために意識することは何か？ 部下も上司を評価するような機会を作る。福井の企業として意義のあるクレドの模索。日々の心理的な変化を話せる制度を作る。福井の中小企業の情報を発信する。自分の幸福だけでなく、他人や地域にとってどうか、という広い視点を養う。職場で幸福を感じる、緩やかな共通点とは？定量的な成果に加えて、成果をだす過程やコミュニケーションに対する評価が重要ではないか？異なる価値観を持ったそれぞれの企業色のあるメンバーの「しあわせ」を感じることを共有することで、普段において意識しない幸福感や達成感においての共通点を見つけることができた。加えて、他社において「従業員が幸福だと感じていること」の背景にある制度をどのように自社に活かし発展していくかについて課題意識を持った。

D 「福井における新規ビジネス」

ジュラシックパークを福井に作ることを私たちは考えました。なぜジュラシックパークかというと、福井といえば恐竜だから。そして2024年の3月に北陸新幹線が福井まで延伸により観光客の増加もできるタイミングを逃すことはできません。ジュラシックパークとは、現代では考えられない生物が生きていた世界を再現し、体感するものです。当時の植物の近縁種を配置した熱帯植物園を構築し当時の環境をできるだけ再現します。そして、古代の生物をロボット

や剥製模型等にて再現し、配置します。このビジネスが成功すると①人が増える②技術力アピール③社会づくりになります。福井への就職、IターンUターンも増加します。

(3) 参加者からの感想、アンケート

交流会全体について、「非常に悪い、悪い、普通、よかった、非常によかった」の5つからあてはまるものを選択してくださいという問いに対して、21名中、13名が非常によかった、8名がよかったという回答を得た。

アンケートでは、普段ではない交流から気づきを得たことや、交友関係を築けたことに対する肯定的な感想等が確認できた。各人の感想は下記の通り。

- ・いろいろな企業と交流の機会をいただけた。
- ・同世代を集めた意見交流会でとても参考になりました。現場でも活かしていきたいと感じました。
- ・いろいろな会社の方と話し合えてよかったです。
- ・普段の業務や生活では得られない経験があったと実感しております。是非、来年以降も企画いただけるとありがたいです。
- ・他社の取り組みなどがわかり、自社に足りないこと、自分自身に足りないものを発見できた。
- ・3回は長いようで短かった、とても有意義な時間でした。
- ・今回のグループ討議を通じて、異業種の話や改めて、自分自身をみつめる機会があり本業に活かしていきたいです。
- ・自分自身の働き方やモチベーションを改めて考えなおすキッカケとなりました。異業種の方とも仲良くなり、プライベートで食事にとったりする仲になりました。交友関係が広がったことも自分にとって大変有意義なものになりました。交流の機会がもう少し多いと嬉しかったです。
- ・今回の交流会に参加させていただき、同世代の福井で働く社会人の方と交流ができて、いい刺激をもらいました。この交流を大事に今後活かしていきたいです。
- ・あと1~2回発表までの回数を増やすなり1回の時間を長くしたりしていただければもっと良いものになったかなと思います。異業種の方と話す機会はあまりないので今回はとても良い時間になりました。
- ・若手社員交流会では、様々な方と交流ができてよかったです。これまでは、同じ業種の方と関わる事が多くても、異業種の方とお話する機会はあまりありませんでした。そのため視点の違いがおもしろく、とても勉強になる交

流会になりました。

- ・これまであまり関わることのなかった企業様との交流ができたことが非常に新鮮でした。
- ・他グループとの交流があまりできなかつたため、1回ごとにグループをシャッフルして行うといろいろな方とお話できるかと思いました。
- ・異業種の方と関わりを持つことが少ないので、貴重な経験になりました。また同年代の方と直接意見を交わすことでお互いの考え方等を共有することができ、参考になりました。
- ・今回の若手交流会で感じたこと学んだことをこれからの業務に活かせるようにしていきたいと思います。
- ・普段、話すことが少ない異業種の方々と話すことができ、たくさんの発見をすることができ刺激を受けました。今回学んだことをこれからの業務に活かしていきたいと思います。

(4) 委員会での感想

委員からは、参加した社員の能力向上やその結果として参加した社員個人の業績の伸長が確認できているとして当該交流会を高く評価する意見や異業種との交流への高い効果とその発展的な展開への期待などの意見があった。交流会後に開催した第8回の委員会においての委員からの感想や振り返りは以下の通りである。

- ・「当社から参加させた社員は、仕事振りに物足りなさがあったが、社員交流会に参加したことによって仕事振りも業績も変わった。社内の人材育成では変わることがなかったが、会社という枠を出て若手同士が交流することで行動が変わったことは大きなことだった」
- ・「参加社員の表情やアウトプットが豊かで、承認欲求の高い人たちばかりで良い影響だった。そういう場に当社からは90人の営業から2名を参加させた。彼らは自分の会社の物差ししか持ち合わせていなかったが、異業種の意見を肌で感じて、同じテーマを一緒に話すことで、自社を客観的に見られる物差しを作れたと思う。良かった。」
- ・「交流会のテーマについて、今回は緩めだった。もう少し高尚なテーマを与えたりインプットさせたりなどしてレベルを上げるのも手である。または、緩さそのまま、高卒や女性なども参加させて交流会を増やすのもあり。継続して開催したほうが良いと考える。」
- ・「若い皆が懇親会では元気だった。当初、異業種だからこそその気づきが得られると良いと思っていたが、感想ではその様なことがあった。よって、継続

したら良いと思う」

- ・「当社からは1名の参加者を出した。女性ばかりの職場で、男性と話すこともない特殊な職場環境の社員である。普段は会わない経営者や社員と会えたのは良い機会だったと思う。また、参加者達は各企業の選りすぐりの社員だと感じるように、リーダーシップもあった。ファシリテーターとしてより、会員も一緒に社員交流会に参加することで、私も勉強にもなった。若い人の発想や感性を我々も学ぶべきだと思った。」
- ・「同年代の社員交流は活発な意見がでていた。」
- ・「常任幹事会で社員交流会のC班に発表してもらったが、常任幹事会の皆が真剣に発表を聞いていた。」
- ・「懇親会でも、自社の社員でないからこそ素直に意見交換ができて良かった。参加した会員として学びの大きい会だった。」

(5) 終わりに 示唆と反省

参加者からは、異業種との交流に、異なる視点への学びや新しい気づきを得たなど肯定的な感想を得た。異業種の人とのかかわりあいにより自分自身の特性を再認識したなど、気づきの機会や本人の成長の機会にできたことがアンケートからわかった。一方で、発表を作り上げる機会として3回という回数が少なすぎる、事前の情報共有によってより深いかかわりになるという意見もあった。

委員会メンバーからは、議論を聞いて、非常に参考になったという感想が多くでた。社員を送り出す側の視点においても、社員の学習機会となったと肯定的な意見が聞かれた。

参加者と委員会メンバーからの感想により、当該交流会の意義が確認できたが、課題としては、どのくらいの示唆があったのか成果を確認する方法が難しいことである。参加者のアンケートに加えて、ヒアリングもしくは、追加でのアンケートを行うことで、なにを得たかをより知ることができる。例えば、アンケートで交流を肯定的にとらえた方に対して、具体的にどの点がよかったのか、交流会後に交流会で得たと思えることがどのように活かされているのか、などの質問をする。それにより、参加者の学び、言い換えるとこの交流会での成果がどの程度であったかの検証がより深いものになると思う。

3回の交流会と懇親会では、コロナ禍でのそれまでの制約があった中でも、希少な機会となり、大変有意義であったと思う。運営する側、参加する社員双方にとって有意義であるため、来年以降においても継続したいという意見で、委員全員が一致した。



優勝チーム記念撮影

若手社員参加企業

井上商事株式会社	1名
弁護士法人高志法律事務所	1名
第一ビニール株式会社	2名
大電産業株式会社	1名
株式会社トゥー・アー・ティ	1名
株式会社TOKO	2名
日本生命保険相互会社 福井支社	1名
株式会社日本ピーエス	2名
ネットヨタ福井株式会社	2名
野村証券株式会社 福井支店	2名
福井キャノン事務機株式会社	2名
国立大学法人福井大学	1名
福井放送株式会社	2名
北陸電気工事株式会社 福井支店	1名

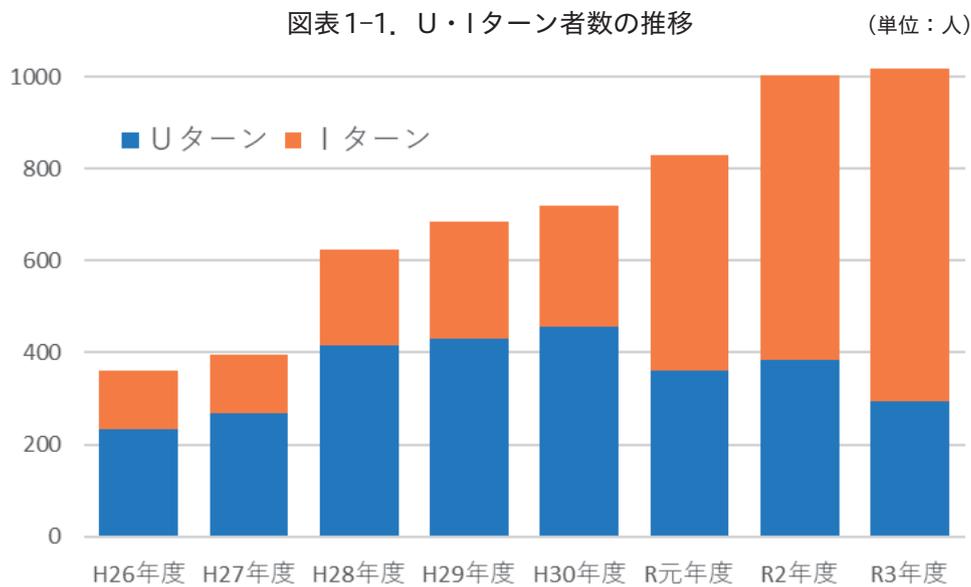
計21名

Ⅲ. 「Fターン小委員会」報告書

人づくり委員会副委員長 今村 善信

(1) 現状の把握と課題の抽出

福井県の公表資料によると、ここ数年、福井県にU・Iターンをする方の人数は増加傾向にあり、2年連続で1,000人を超えている（図表1-1参照）。また、直近の数期間は、福井県が数字を把握するようになってから過去最高の人数を更新し続けている。



出所：福井県定住交流課公表資料 (R4.4.25)

ただ、その数字をUターン者数とIターン者数に分けて見てみると、Uターン者数は減少傾向にあることがわかる。そこで、Fターン小委員会としては、特にUターン者数を増やすことにつながる取り組みを構想することにした。

(2) 課題解決のための事業の骨子

では、Uターン者数を増やすために必要なことで、当委員会ができることはどのようなことなのだろうか。委員会内で議論を深めていく中で、「Uターン者数が少ないのは、県外に進学する若者が、福井で働くこと・暮らすことの良さを知らず移住してしまっているためである」という仮説に辿りついた。そして、この仮説に基づく課題を解消するためには、「福井県を離れる前の進学校の高校生に、福井で働くこと・暮らすことの良さを知ってもらうことがU

ターン者数を増やすために効果的である」と考えるに至り、当委員会が進学校の高校で出前授業を行うことを事業の骨子とすることにした。

① 出前授業の実施方法と実施校の選定

高校での出前授業というアイデアは生まれたが、それを実現させるためには具体的にどうすればよいのかを知らなかったため、県教育庁高校教育課に相談に伺った。我々の事業の趣旨にご理解をいただき、令和4年度にモデルケースとして嶺北・嶺南で1校ずつ行うことにしてみてもどうか、とのアドバイスをいただいた。また、大学受験を控えている高校生に対し、その先の働くこと・暮らすことだけを伝えても身近に感じられない可能性が高いため、文理選択や大学・学部選択についても伝えた上で、その先にある働くこと・暮らすことも考えてもらうような授業にしてはどうか、とのアドバイスも頂戴した。

その後も県教育庁高校教育課と検討を重ね、モデルケースとして実施する候補として藤島高校・敦賀高校の2校を選定した。令和4年度を迎えた4月初旬に2校を訪問し、それぞれの校長先生に事業の趣旨をお伝えしたところ、両校とも7月に、1年生を対象に事業を実施することをご承諾いただいた。

② 出前授業の内容の決定

出前授業の実施校の選定と並行して、どのようなことを高校生に伝えるのかを検討していった。小委員会内での検討、および県教育庁高校教育課・同生涯学習課・県交流文化部定住交流課へのご相談を踏まえ、U・Iターンした少人数の方へのヒアリングではなく、多くの方に自由回答形式でのアンケートを実施し、その中でメッセージ性の高いものを選びすぐってお伝えすることとした。

アンケートの実施にあたっては、高校生により身近な世代、そして子育て世代の意見を集めるべく、20代・30代のU・Iターンをされた若手社会人を対象とすることとした。多くのアンケートを集めるべく、福井経済同友会の会員の皆さまにお願いし、会員企業内の該当する社員にご協力いただくこととした。併せて、県交流文化部定住促進課にも相談したところ、県庁の若手職員にも実施していただけることとなった。結果として、会員企業から409名、県庁職員から380名、合計789名もの方にアンケートにご協力いただけた。

この789名にご回答いただいた全てのアンケートを読み込み、メッセージ性の高いものを抽出し、授業で伝えるスライドを作成した。作成にあたっては、小委員会のメンバーで内容を精査した。

(3) 実施した事業の概要

令和4年7月15日の午後に敦賀高校の1年生228名、7月20日の午後に藤島高校の1年生336名を対象に、「進学と就職を考えるヒント～福井にU・Iターンした789人のアンケートから～」と題し、質疑応答を含めて2コマの授業時間をいただいて出前授業を行った。藤島高校での事業については、福井新聞、NHK福井放送局にも取材に来ていただき、同日・翌日に報道していただいた。



2022年7月21日 福井新聞 23 ページ



出前事業で使用したスライドは、p.20からのスライド資料①を参照されたい。

(4) 社会人アンケートの要旨と分析

① アンケートの要旨

社会人アンケートについては、所属や年齢、出身大学・学部といった個人属性に関わることを除き、全て自由回答形式で行った。2022年の4月から5月にかけて、経済同友会会員企業向けアンケートはGoogle Formsを、県庁職員向けアンケートはMicrosoft Formsを使用してご回答いただいた。前述の通り、結果として、会員企業から409名、県庁職員から380名、合計789名もの方にアンケートにご協力いただけた。

Uターンされた方へのアンケートの主な質問項目は、下記の通り。

- ・「県外に進学しよう」と思ったきっかけは、どんなものでしたか？
- ・「福井に帰って働こう」と思ったのは、なぜですか？
- ・福井に帰って働くことを意識したのは、いつ頃ですか？
- ・進学先・就職先のまちに未練はありませんでしたか？
- ・大学で学んだことは、仕事でどのように生きていますか？
- ・「福井で働くことを選んでよかった」と思えるのは、どんなことですか？
- ・「福井に住んでよかった」と思えるのは、どんな時ですか？
- ・文理選択や進学する大学、先行する学部について悩んでいる高校生に何かアドバイスがありましたら、宜しくお願いします。

また、Iターンされた方へのアンケートの主な質問項目は、下記の通り。

- ・「福井で働こう」と思ったのは、なぜですか？
- ・福井で働くことを意識したのは、いつ頃ですか？
- ・地元へ帰ることに未練はありませんでしたか？
- ・大学で学んだことは、仕事でどのように生きていますか？
- ・「福井で働くことを選んでよかった」と思えるのは、どんなことですか？
- ・「福井に住んでよかった」と思えるのは、どんな時ですか？
- ・文理選択や進学する大学、先行する学部について悩んでいる高校生に何かアドバイスがありましたら、宜しくお願いします。

これらのアンケートに対する回答の概要は、p.20からの〈スライド資料①〉を参照されたい。[※]

② 福井大学竹本研究室による分析

アンケートの回答について、福井大学竹本研究室にテキストマイニング分析を行っていただいた。内容については、p.28からの〈スライド資料②〉を参照されたい。

(5) 学生アンケートの要旨と分析

① アンケートの要旨

学生アンケートについては、定量化可能な回答と自由回答方式のものを取り交ぜたものとした。また、授業を実施した前後での考え方の変化を知るため、授業実施の1週間前に事前アンケートを、授業実施後に事後アンケートをそれぞれGoogle Formsを活用して行った。敦賀高校においては、事前アンケートに188名、事後アンケートに212名から回答をいただいた。藤島高校においては、事前アンケートに286名、事後アンケートに278名から回答をいただいた。

[※]詳細についてはExcel形式にて保存しているため、必要な方は福井経済同友会までお問い合わせ下さい。

コロナ禍における実施ということもあり、事前・事後のアンケートで人数に差異はあるが、全体の傾向を知る上では問題はないと考える。

なお、できるだけ本心を回答してもらえようとするため、個人を特定できるような聞き方は行っていない。このため、個人レベルでの考え方の変化が把握できる結果とはなっていない。

事前アンケートの質問項目は、下記の通り。

1. 自分の中に、文理選択の基準はありますか？
2. 自分の中に、大学・学部選択の基準はありますか？
3. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか？ その理由を教えてください。
4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか？〈レベル1(低)～レベル10(高) 単位：人〉
5. 今回の講演を聞くにあたって、質問してみたいことがありましたら教えてください。
6. 進学にあたって、今、あなたが一番大切にしていることは何ですか？

また、事後アンケートの質問項目は下記の通り。*

1. 文理選択の基準はより明確になりましたか？
2. 大学・学部選択の基準はより明確になりましたか？
3. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか？ その理由を教えてください。
4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか？〈レベル1(低)～レベル10(高) 単位：人〉
5. 今回の講演を聞いた感想を教えてください。
6. 進学にあたって、今、あなたが一番大切にしていることは何ですか？
7. 高校生として、どのような姿勢の企業に魅力を感じますか？
8. 福井の企業に期待することを教えてください。

② 定量化可能な回答の結果

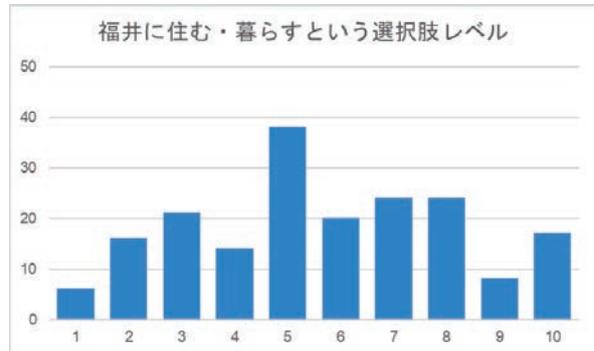
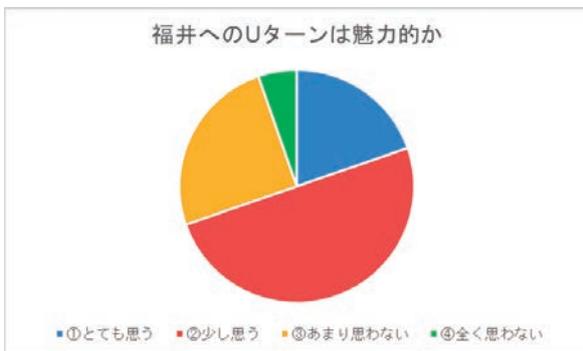
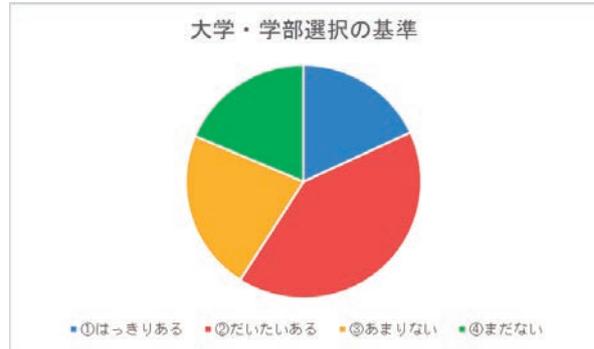
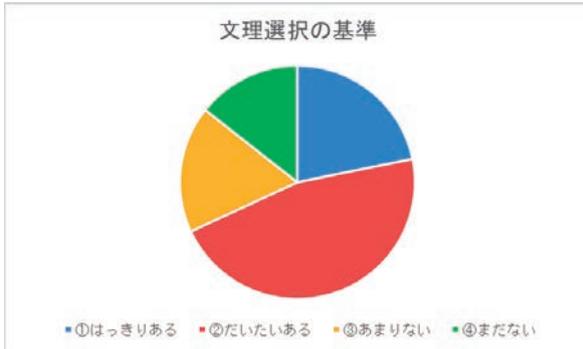
高校生を対象に行ったアンケートにおいて、定量化可能な回答についてのまとめは、p.15、p.16の通りである。

③ 福井大学竹本研究室による分析

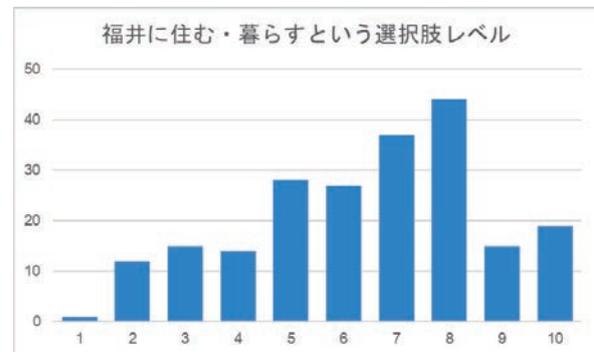
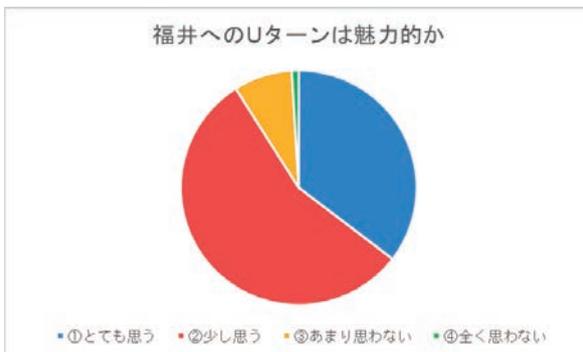
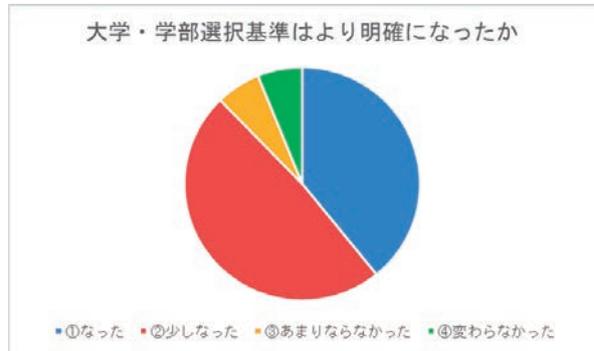
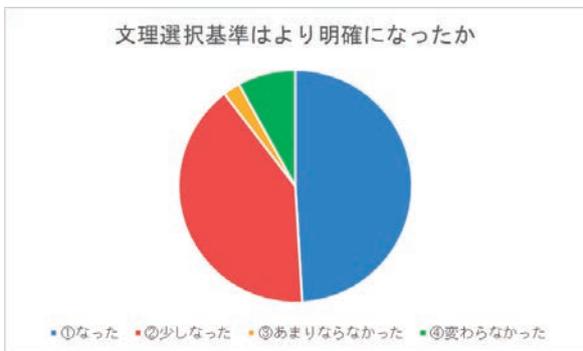
アンケートの回答について、福井大学竹本研究室で定性データにおいてはテキストマイニング分析を、定量データについては統計分析を行っていただいた。内容については、p.34からの〈スライド資料③〉を参照されたい。

*詳細についてはExcel形式にて保存しているため、必要な方は福井経済同友会までお問い合わせ下さい。

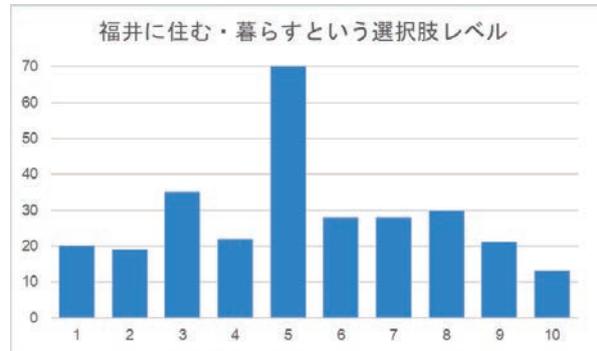
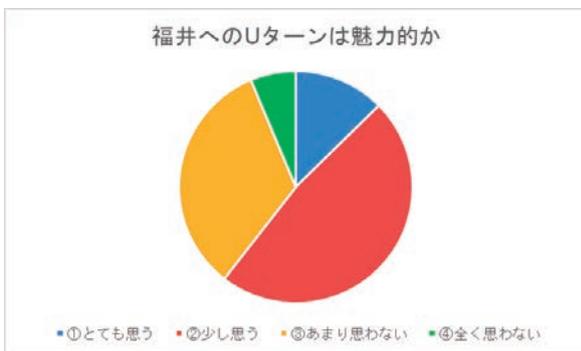
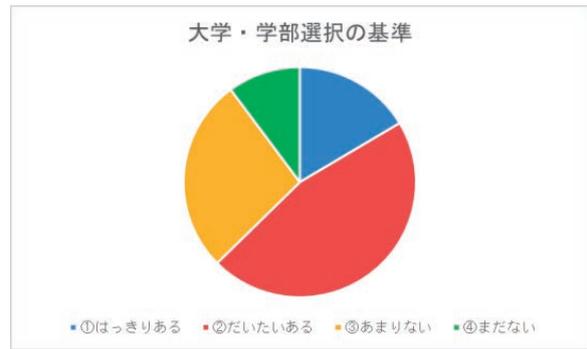
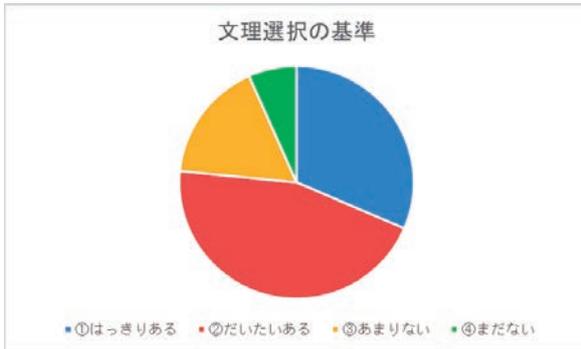
・ 敦賀高校 事前アンケート (n=188)



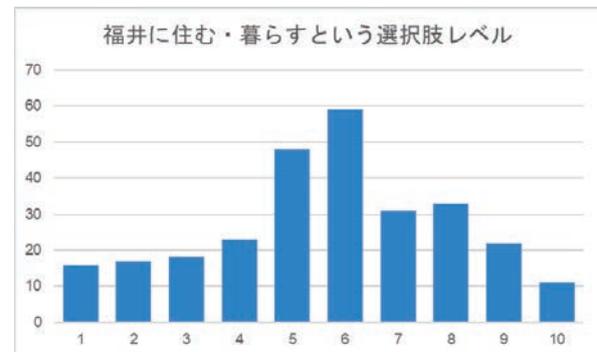
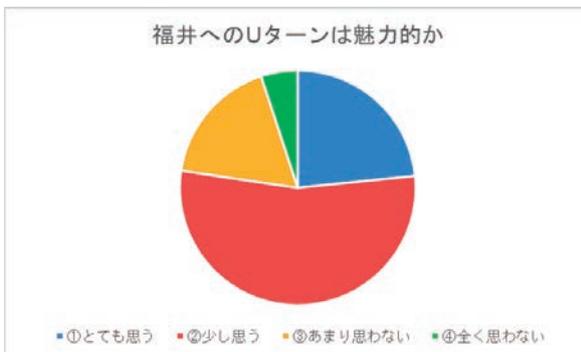
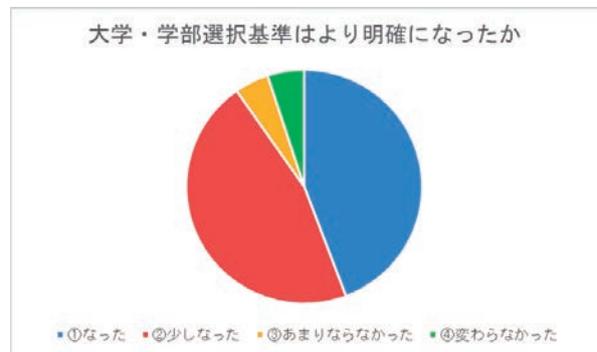
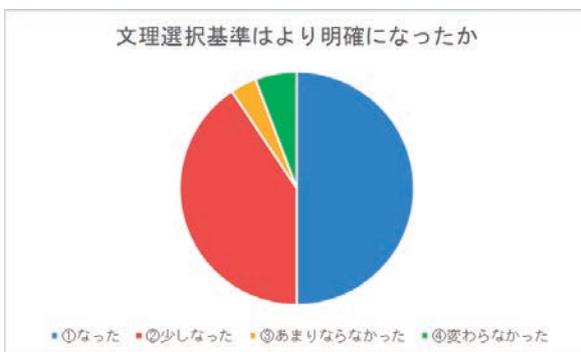
・ 敦賀高校 事後アンケート (n=212)



・藤島高校 事前アンケート (n=286)



・藤島高校 事後アンケート (n=278)



(6) 考察

① 社会人のU・Iターンについて

まず、Uターンについて考察したい。スライドには入っていないが、竹本研究室によると、Uターンには積極的なUターンと消極的なUターンに分類できるという。積極的なUターンとは、福井への愛着を感じて、地元のために貢献したいという思いによるものである。一方、消極的なUターンとは、長男であるから、親の面倒を見なければいけないから、という家族の都合によるものである。

消極的なUターンも決して否定されるものではないが、この対象となる方々は特に施策を打たなくてもUターンしてくれる。このため、促進策を検討していく際には、積極的なUターンに焦点を絞ることが望ましいと考えられる。竹本研究室の分析にもあるように、地域に貢献したいという思いのある、子育て中の夫婦、もしくは結婚を考えている30代の方を中心にアプローチしていくことは、子育て環境の充実している福井においては有効であると考えられる。

次に、Iターンについて考察したい。こちらについては「住む」よりも「働く」を高い優先順位で決めていることが分かった。つまり、「福井に住みたい」というよりも、「働きたい会社が福井にあった」「就きたい仕事があり、働く場所がたまたま福井だった」ということである。

Iターンを促進するために必要なことは、根本的には、福井を拠点とする企業が魅力的になることではないだろうか。そういった企業のPRを手伝ったり、助成したりすることはできるが、あくまでも主体はそれぞれの企業である。その意味では、社員交流小委員会が実施した若手社員の交流のように、それぞれの企業で社員一人ひとりが光り輝くことが重要であると考えられる。

U・Iターン者数を増加させていくために、20代から40代の子育て世代の男女が働きやすい環境を整えることも重要である。ただ、それ以上に、県内企業がそういった方々に活躍する場を提供できることが最も重要であると考えられる。

「地元のために貢献したい」と思う方がいたとしても、その能力を発揮できる場がないのであれば、実際に役に立つことができない。多様な学びや経験を持つ方に合った働く場所を提供していくことが、県内企業に求められることなのではないだろうか。

② 学生への出前授業について

高校1年生に対する定量化可能なアンケートの結果を見ると、この授業を受

けてもらった生徒は、いずれの学校においても、文理選択の基準、大学・学部選択の基準、Uターンに対する考え方の全てにおいて、事前よりも事後の方が数値として改善が見られた。

また、竹本研究室による定量データの分析においても、事業実施の前後で有意な差が確認され、定性データの分析においても、Uターンについての経験や話を聞くことが、意識を醸成するのに効果的であることが分かった。

よって、出前授業によって伝えたいことは、有効に伝えられたと考えられる。また、出前授業という方法も、効果的であったと考えられる。

以上のことから、当委員会が目的としていた「福井県を離れる前の、特に進学校の高校生に、福井で働くこと・暮らすことの良さを知ってもらう」ことは、「U・Iターンを経験した若い、子育て世代の社会人の生の声を出前授業で聞いてもらう」という手法を通して有効に果たすことができると考える。

この2年間の活動を通して、高校生や大学生に対して最も伝えていくべきことは、「働くことを考えることは、暮らすことを考えることでもある」ということであると当委員会は考える。

就職活動においては、文字通り“働く”ことについて考えることがほとんどであり、“暮らす”ことについてまで考えが及んでいない。ただ、現実として、この両者は対の関係にあるはずである。幸福度ランキング最上位で、子育て環境が充実している福井県において、キャリア教育の場でこの2つの関係性について話していくことは、将来的なUターン者数を増やすことにもつながるのではないだろうか。

なお、両校において県内で働くことに対する積極性に違いがみられるが、これは高校を卒業してすぐに地元で働くことを前提としている生徒が母集団に含まれている率に違いがあるためである。このため、今回の事業において、嶺北・嶺南のいずれで行うことがより効果が高いのかということを示しているわけではない。

③ U・Iターン者数に関する指標について

今回、U・Iターンを検討していく中で、Uターン者数およびIターン者数という数字をどのように計測するのかという全国統一での指標が存在しない、という事実を知ることとなった。県内の時系列のデータはあるが、それを全国と比べるとどうなるのか、ということを知りたいと思ったのだが、各都道府県で同じ物差しで測っておらず、比較することができなかつたのである。『地方消滅』

が現実にならないようにするため、自治体における政策立案や検証、各企業における戦略立案を行っていくには、全国でU・Iターン者数を統一指標で比較できることは重要であると考えられる。

(7) 今後の展望

この2年間におけるFターン小委員会の事業については以上であるが、最後にこの事業の今後の展望について、3つの視点から提案をしたい。

① 事業の次年度以降の実施について

事業で使用するスライドはすでに作り込んであり、その内容も短期的に時流にそぐわなくなるものではないと考えられる。このため、事業の実施にあたっては次年度以降もそれほどの労力をかけずに可能であり、当委員会として事業を継続したい。

② 事業のバージョンアップについて

継続して事業を行っていくのであれば、時世に合わせたバージョンアップが必要となる。その場合は、5年に一度をメドにアンケートの取り直し、スライドの作り直しが必要であると考えられる。

また、今回はU・Iターンをされた方へのアンケートであったため、Uターンされなかった方の意見を取り込むことはできていない。U・Iターンを決めた理由を知ることも大切であるが、しないことを決めた理由も同様に大切である。どのようにヒアリングやアンケートを行うのかについては検討の余地があるが、取り組む価値は大いにあると考えられる。

③ 本年度対象者の追跡調査について

出前授業を受けていただいた敦賀高校・藤島高校の2校の1年生が、今後、文理選択や大学・学部選択、就職においてどのような意思決定を行っていくのか、追跡調査を試みる価値があると考えられる。出前授業を受けていない学年、を受けていない学校の同級生と有意な差があるようであれば、このような授業に取り組むことがUターンの促進に効果的であることが実証できる。2年後、6年後に追跡調査ができ、検証できるのであれば、この事業の本当の意味での成果を示すことができると考えられる。こちらについては、両校の同窓会を通して依頼してみる価値があるのではないだろうか。

<スライド資料①：出前事業にて使用したスライド>

進学と就職を考えるヒント
～福井にU・Iターンした789人のアンケートから～

2022年7月20日
福井経済同友会 人づくり委員会

目次

1. この講演に至る経緯
2. アンケートから分かったこと
3. (アンケート以外で) 知っておいて欲しいこと
4. まとめ

2

1. この講演に至る経緯

3

大学進学についての悩み…

- 文理選択は、将来の仕事にどうつながる？
- 偏差値の高い大学に行くべき？
- 県外に行くなら、帰ってこない覚悟が必要？
- 大学の学部で、仕事の内容は決まってしまう？
- どこまで先のことを考えればいい？

今、悩んでいる人は多くいるはず

4

今、悩んでいる人は多くいるはず



かつて、悩んでいた人も多くいるはず

5

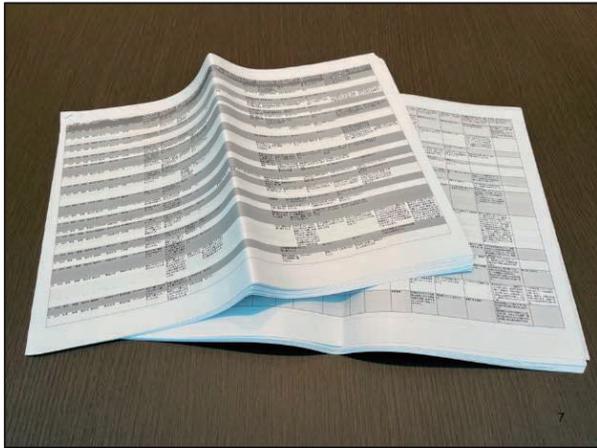
同じ悩みだった人に聞いてみよう！

- アンケートの実施
- 全て自由記入方式での回答

対象 福井にU・Iターンした20代・30代
実施期間 2022年4月～5月
実施方法 Google Form、Microsoft Forms

789名 (企業409名・官公庁380名) が協力

6



悩んでいた人の思いを伝えることが、
悩んでいる人の助けになるはず



講演として、皆さんにお届け

8

« 注意事項 »

1. 自由記入方式を取ったため、客観的にデータとしてお示しできるものではありません
2. アンケート中の際立った意見をお伝えするため、平均的な意見をお伝えするものではありません

9

2. アンケートから分かったこと

10

① 進学編

11

県外の大学に進学したのは？①

- 一番多かった理由

行きたい大学・学部があった



- 一番多かった動機

一人暮らしがしてみたかった



12

県外の大学に進学したのは？②

- その他の回答

取りたい資格・免許があった

旅行で行って気に入った場所

スポーツのレベル向上

多様な人との出会いを求めて

行くなら日本一の大学に

13

県外の大学に進学したのは、
県内では叶えられないことがあったから

14

大学の勉強は仕事の役に立ってる？①

- 専門学部で多かった回答

基礎知識になっている



専門文書・用語がわかる



15

大学の勉強は仕事の役に立ってる？②

- 多かった回答

論理的思考力がついた

数字・統計に強くなった

コミュニケーション能力向上

PC・ソフト活用のスキル獲得

自ら能動的に学ぶ姿勢

16

**大学での勉強は、
そのまま仕事に役に立つこともあるが、
人としての成長の機会でもある**

17

文理選択のアドバイス①

- 文系の人に多かった回答

理系の方が就職に有利！



- 理系の人に多かった回答

文系の方が学生生活が充実！



隣の芝生は青く見えるらしい…

18

文理選択のアドバイス②

- 選び方についてのアドバイス

特定科目の得意不得意だけで
選ばない方が良い

どんな分野に興味があるのか
考えてみると良い

文転も理転も可能だが、
かなりの努力が必要

19

文理選択のアドバイス③

- 就職後の感想

多くの仕事は、文系でも
理系でも就くことができる

論理的な考え方は、
文系・理系を問わず大切

向き不向きよりも、自分が
「前向き」であることが大切

20

**文系・理系の選択は、
自分自身の興味・気持ちを大切に**

21

大学・学部選びのアドバイス①

- 専門性について

就きたい職業に必要な
資格が取れる大学・学部

多くの仕事は、どんな大学・
学部でも就くことができる

専門職の道に進むと、
その他の道は狭まってしまう

22

大学・学部選びのアドバイス②

- 下調べの大切さについて

どんな大学・学部があるかを調べ、自分に合うところへ

現地に足を運び、大学生活をイメージすると良い

オープンキャンパスへは、行けるだけ行くべき

23

大学・学部選びのアドバイス③

- 選ぶポイントについて①

学びたいことを学べる大学・学部に行くべき

何を学ぶのかを具体的にイメージできる学部がいい

24

大学・学部選びのアドバイス④

- 選ぶポイントについて②

どこに行ったのかよりも、何をしたのかの方が重要

偏差値だけで決めてしまうのはもったいない

25

大学・学部選びのアドバイス⑤

- 選ぶポイントについて③

総合大学だと、多様な学生と交流できる良さもある

住んでみたいところに行く、という考え方もある

26

**大学・学部の選択は、
調べられるだけのことを調べた上で、
学びたいこと・学びたい場所へ**

27

進学全般へのアドバイス①

- 決断について①

どんな選択も、正しかったかどうかを決めるのは自分

自分が納得できる答えを自分で出すことが大切

自分で決めたという思いがあれば、後悔はしない

28

進学全般へのアドバイス②

- 決断について②

悩んだらまず進み、ダメなら別の道に変更すればよい

合わなかった道を選んでも、無駄になることはない

今のご時世、学び直す機会はいくらでもある

29

進学全般へのアドバイス③

- 決断について③

「とりあえず進学」は、金銭的にもおすすめできない

なんとなく大学に行くことに意味はない

30

進学全般へのアドバイス④

- 時間軸について

今だけでなく卒業後のことも
考えた方がいい

大学がゴールではないので、
その先もちゃんと考えるべき

31

進学は、

自分で悩み、意義を見つけ、自分で決める

32

②就職編

33

帰ってくることを決めたのはいつ？

- 一番多かった回答

就職活動を始めてから

- 多かった回答

大学進学前から

内定をもらってから

34

多くの人が帰ってくることを決めたのは、

働くこと、住むことを考えた時

35

帰ってくることに未練は？

- 一番多かった回答

あった

- 多かった回答

新卒者のUターン率 約30%
(福井県調べ)

帰ってくる約束だった

なかったわけではない

36

帰ってくることに未練はあったが、

今の暮らしにはおおむね満足している

37

福井で働くことを選んで良かったのは？①

- 働く場での機会について

与えられるチャンスや
役割が多い

誰もやっていない、
先頭に立てる仕事がある

ナンバーワンではないが、
オンリーワンになれる

38

福井で働くことを選んで良かったのは？②

- ワークライフバランスについて

女性も働くことが当たり前、
という文化が定着している

家族との時間も
ちゃんと持つことができる

転勤などの希望を
ある程度聞き入れてくれる

39

福井で働くことを選んで良かったのは？③

- 働く環境について

もともと顔見知りの人とも
仕事ができる

車で通勤できるので、
満員電車で通勤しなくていい

福井では約60分
全国の平均は約80分
(H28社会生活基本調査)

40

福井で働くことを選ぶと、

生活面も恵まれながら働くことができる

41

福井で住むことを選んで良かったのは？①

- 自分に関して

水・食べ物（特に魚介類）が
本当に美味しい

自然がすぐ近くにあるので
レジャーを楽しみやすい

高校までの友人や幼馴染にも
すぐに会える

42

福井で住むことを選んで良かったのは？②

- 家族に関して①

マイホームを持つことへの
ハードルが低い

東名阪に比べて生活費が
安く済む分、生活の質が高い

東京と福井では、
60歳までで約3,000万の違い
(福井県シミュレーション)

43

福井で住むことを選んで良かったのは？③

- 家族に関して②

子育てに関する環境が
すごく整っている

「お受験」に巻き込まれる
ことがない

親と一緒に住めたり、
近所に住めたりできる

44

福井で住むことを選ぶと、

**家族にとっても、自分にとっても、
日常で恵まれていることが多い**

45

今、就職するなら考えること

仕事と住む場所、どちらに
拘るかを考えておくと良い

コロナ前とは違い、どこに
住んでもできることがある

東名阪なら、日帰りで遊びに
行くこともできる

46

働くことについて考えることは、
暮らすことについて考えることでもある

47

3. 知っておいて欲しいこと

48

日本にある大学はどのくらいの数？

803校

(文部科学省 令和3年度学校基本調査より)

- 福井県にあるのは、そのうちの6校
(全体の約0.7%)
- 学部毎に分類すると、約2,600の選択肢

進学とは、その中から1つを選ぶこと⁴⁹

県外大学への進学はいくらの価値？

約20,000,000円

- 4年間の学費と生活費 約1,000万円
(=親のマイナス)
- 4年間働いた場合の収入 約1,000万円
(=家族・自分のプラス)

それ以上の価値を生み出すことが、恩返し⁵⁰

日本にある法人はどのくらいの数？

約2,000,000法人

(医療法人(病院)や宗教法人(寺院・神社)を含む)

- 福井県には約20,000の法人(全体の約1%)
- 創業・フリーランスという働き方もある
- 世界へ飛び出す、という選択肢もある

「働く」とは、その中から1つを選ぶこと⁵¹

実は、福井は起業しやすい場所

- 費用が低く抑えられる
 - 家賃が安い
 - 水道光熱費が安い
- 「働く」ことへの意識が高い
 - 採用がしやすい
 - 1人当たりの生産性が高い
- ネットビジネスなら、場所は関係ない

福井で起業した
IT企業社長の生の声

新たな事業を創り出すことも可能⁵²

4. まとめ

53

まとめ① 進学編

- 県外への進学は、県内では叶えられないことがあるときに行う
- 大学での学びは、仕事にそのまま役に立つこともあり、人としての成長の機会でもある
- 文系・理系の選択は、専門職に就かない限り関係ない
- 大学・学部の選択は、十分に調べた上で、学びたいこと・場所を考慮する

54

まとめ② 就職編

- 多くの人が福井に帰ってくることを決めたのは、働くこと、住むことを考えた時
- 福井で働くことを選ぶと、生活面も恵まれながら働くことができる
- 福井で住むことを選ぶと、日常生活において恵まれていることが多くある
- 仕事について考えることは、暮らすことについて考えることでもある

55

進学も就職も、自己実現のための手段

視野を広げ、より多くの選択肢を

56

ご清聴ありがとうございました



<スライド資料②：福井大学竹本研究室による社会人アンケート分析>

社会人のU・Iターン意識分析

福井大学竹本研究室

福井県における Uターン率の推移

・北信越からのUターン率が前年度と比較して3.1ポイント(21人)増加した

・進学者の最も多い関西圏からのUターン率が前年度と比較して1.4ポイント(△17人)減少した。特に女性のUターン率は4.3ポイント(△34人)減少した。

・全体では男性27.9%(+1.7ポイント、+10人)が女性26.7%(△1.7ポイント、△22人)より高くなっている。

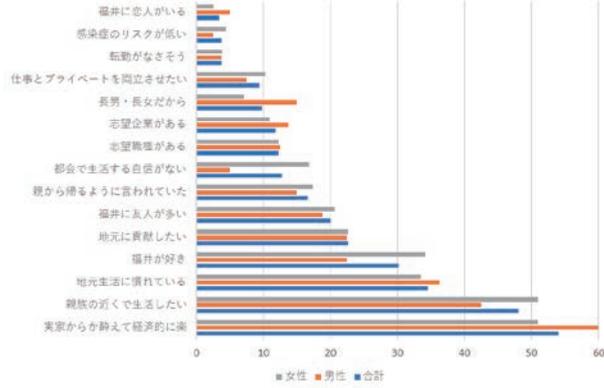
(資料：福井県庁、同友会アンケートとは別)

卒業年月	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3
Uターン率(%)	28.8	29.2	31.5	32.1	26.5	27.2	27.4
Uターン者数(人)	776	744	775	830	683	727	715
県外大学 者等進学者数(人)	2695	2547	2459	2588	2576	2674	2613

	R3			R4			R3-R4		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全体	26.2(375)	28.4(352)	27.2(727)	27.9(385)	26.7(330)	27.4(715)	1.7(10)	△1.7(△22)	0.2(△12)
関東	18.0(44)	10.6(20)	14.8(64)	16.0(36)	14.3(28)	15.2(64)	△2.0(△8)	3.7(8)	0.4(0)
関西	24.2(120)	29.1(167)	26.8(137)	26.0(137)	24.8(133)	25.4(270)	1.8(17)	△4.3(△34)	△1.4(△17)
中京	27.2(74)	29.6(55)	28.2(129)	26.8(60)	26.4(51)	26.6(111)	△0.4(△14)	△3.2(△4)	△1.6(△18)
北信越	34.6(117)	42.8(92)	37.8(209)	39.9(129)	42.3(101)	40.9(230)	5.3(12)	△0.5(9)	3.1(21)

学生が Uターン就職を した理由

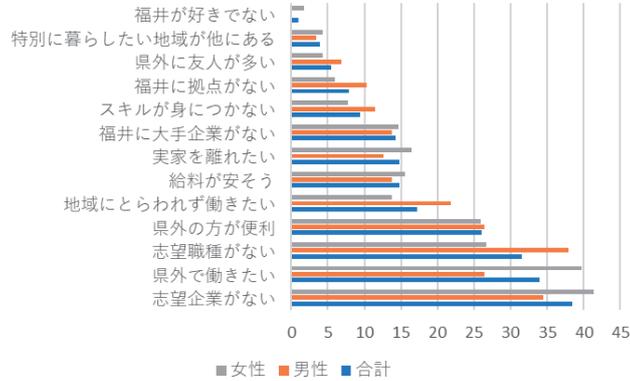
(資料：福井県庁、同友会アンケートとは別)



- ・男子は「経済的」にも「生活的」にも楽、という理由
- ・女子は好きな福井県にいる親の近くで「安心・安定」した暮らしを望んでいる

学生が Uターン就職を しなかった理由

(資料：福井県庁、同友会アンケートとは別)



- ・県内企業、県内生活の利点を知ってもらうか
- ・福井で就職して働くことの良さをアピール

回答者の 出身大学

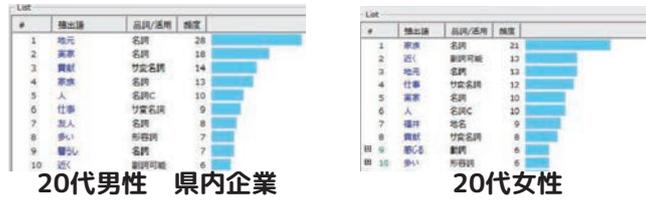
(出所：福井経済同友会アンケート)



どの年代でも
「金沢」「関西」が多い

20代男女の 抽出語リスト

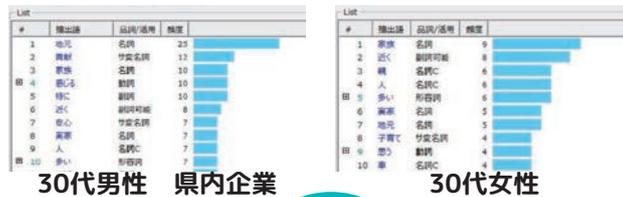
(出所：福井経済同友会アンケート)



「家族」「地元」
といった言葉が多い

30代男女の 抽出語リスト

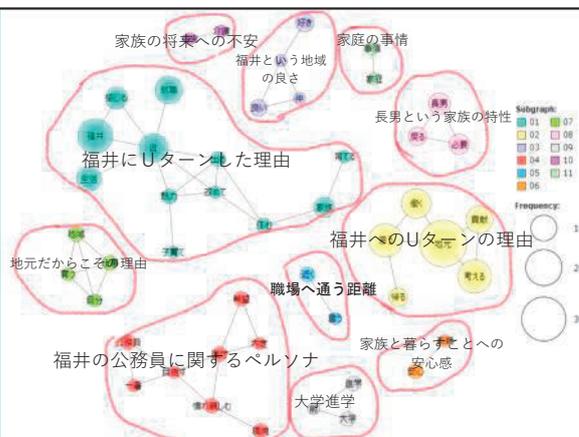
(出所：福井経済同友会アンケート)



「県庁」「公務員」「国家」
といった言葉が出てきた

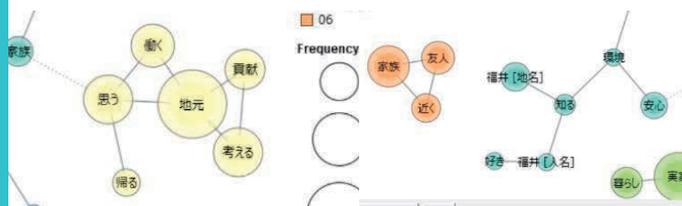
20代男女の 共起ネットワーク

(出所：福井経済同友会アンケート)



Uターンした理由として、
「地元で働く」群よりも「家族」に関する群が強い

20代男女の 共起ネットワーク 考察

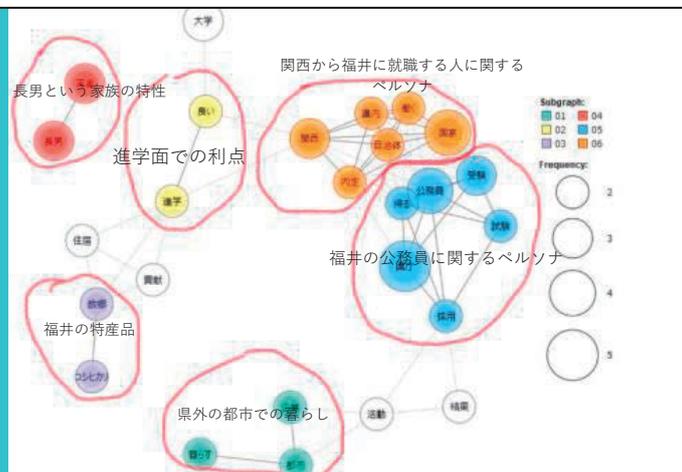


家族、友人の近く、実家ででの暮らしの繋がりが、強く見られるのに対し、地元へ貢献したいという思いでUターンする人が少ない



「地元で働く」という気持ちもあるが、それ以上に「生まれた場所だから」という思いの方が強い

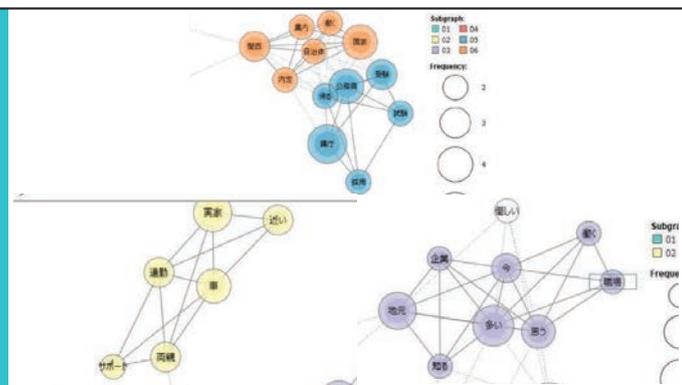
30代男女の 共起ネットワーク



「公務員として働くペルソナ」が20代と同様に見られ、新たに「関西からのUターンを考える人のペルソナ」も

(出所：福井経済同友会アンケート)

30代男女の 共起ネットワーク 考察



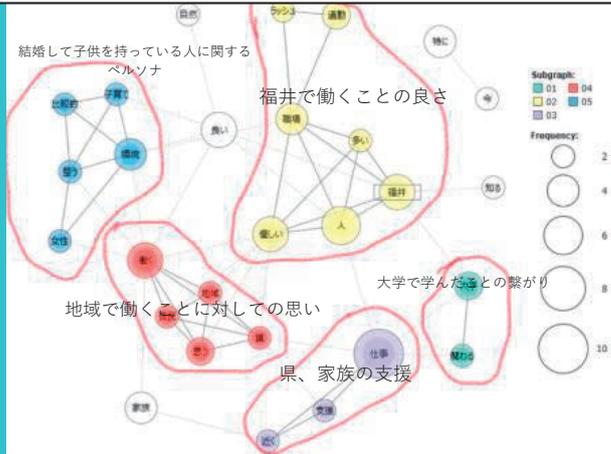
「両親のサポートを受けられる地元で働く」繋がりと同時に、「地域へ貢献するために働く」繋がりが強く見られる



「家族、実家だから」という思いもあるが、「福井へ貢献したい」という考えが強い

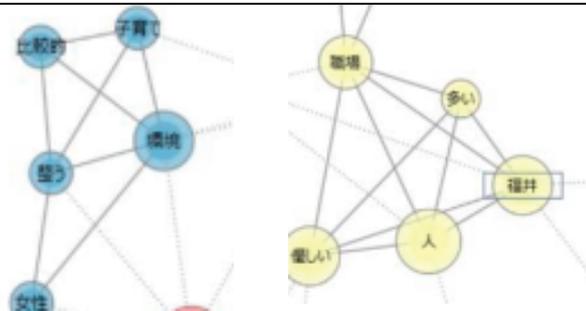
Uターン男女の 共起ネットワーク

(出所：福井経済同友会アンケート)



「結婚」に関する群が最も大きく、
地域で働くことへの思いがその次に大きい

Uターン男女の 共起ネットワーク 考察



「子育て」の群との繋がりとして、
「地域の人間性」に対する群が見られる



「地域のために働く」という思いもあるが、
それ以上に「子育て」に対する思いが強い

年代別考察

- 20代・30代ともに就職や転職で悩んでいる人は多い
- 年齢とともに「地元へ貢献」という意識が高くなる
- 年齢とともに「結婚」も考えながら働く場所を考えるようになる



地元へ貢献したい人の方が、
Uターンしてくれる可能性が高い



30代の結婚を考えている人をターゲットにすると
より可能性が高まるのでは？

居住地別考察

- ・ Uターンを考えている関西の人の多くは、福井が
 どのような場所なのかを知らない
- ・ 同じ北陸でも、金沢のことを知っている人は多い



関西圏の人に、福井で働くことの良さ、
 住みやすさをPRして知ってもらう

Uターンの メインターゲット

関西在住で、子供がいて、
Uターンを考えている30代男女



Uターンの アプローチ法

福井の良さとして...

- ・ 持ち家率76.1%と全国3位
- ・ 物価が安い

福井県の活動として...

- ・ 子育て世帯の移住幸福度ランキング全国1位
- ・ 待機児童ゼロ



転職を考えている関西在住の30代に、
SNSやWEBを活用して
「子育てのしやすい県」としてアピールしていく

<スライド資料③：福井大学竹本研究室による学生アンケート分析>

高校生アンケート データ分析 (Uターン)



Takemoto Lab

福井大学大学院工学研究科
産業創成工学専攻 経営・技術革新工学研究室

高校の違い、講義前後での質問間の相関

「1. 自分の中に、文理選択の基準はありますか？(1. 文理選択の基準はより明確になりましたか?)」「2. 自分の中に、大学・学部選択の基準はありますか？(2. 大学・学部選択の基準はより明確になりましたか?)」「3-1. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?」「4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか?」の定量分析(相関比較分析)



Takemoto Lab

分析の手法：
定められた4つの設問の回答(対応のあるデータ)の相関を、藤島高校と敦賀高校のそれぞれの講義前と講義後で比較。

分析のポイント：
設問1, 2に関しては、①はっきりあるを4、②だいたいあるを3、③あまりないを2、④まだないを1とおき、設問3, 4に関しては、①とても思うを4、②少し思うを3、③あまり思わないを2、④全く思わないを1として尺度を設定した。

結果：
高校別、講義実施前後別の2×2の4カテゴリーにおいて、「文理選択」と「大学学部選択」、「Uターン希望」と「将来の居住希望」には強めの相関関係が見られた。一方、講義実施後において、相関関係が強くなる項目が見られた。

考察：
「文理選択」と「大学学部選択」、「Uターン希望」と「将来の居住希望」における相関が存在し講義実施前後で変化はないものの、「講義実施前には見られなかった「大学学部選択」と「Uターン希望」「将来の居住希望」に講義後の相関が上昇したことは、講義の実施が何らかの影響を与えた可能性も想定される。

藤島講義実施前	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：藤島前	1.00			
大学学部：藤島前	0.57	1.00		
Uターン：藤島前	0.01	0.09	1.00	
住む：藤島前	-0.01	0.02	0.74	1.00

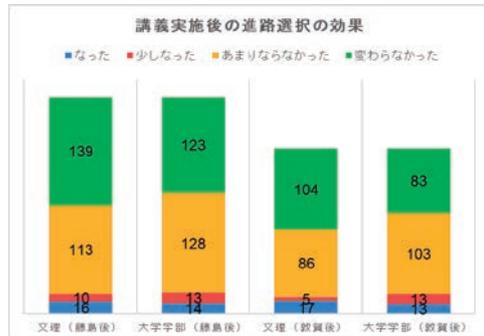
藤島講義実施後	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：藤島後	1.00			
大学学部：藤島後	0.65	1.00		
Uターン：藤島後	0.27	0.28	1.00	
住む：藤島後	0.23	0.21	0.76	1.00

敦賀講義実施前	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：敦賀前	1.00			
大学学部：敦賀前	0.70	1.00		
Uターン：敦賀前	0.05	0.04	1.00	
住む：敦賀前	-0.08	-0.04	0.56	1.00

敦賀講義実施後	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：敦賀後	1.00			
大学学部：敦賀後	0.68	1.00		
Uターン：敦賀後	0.12	0.28	1.00	
住む：敦賀後	0.02	0.13	0.62	1.00

関連まとめ

「1. 自分の中に、文理選択の基準はありますか？（1. 文理選択の基準はより明確になりましたか？）」「2. 自分の中に、大学・学部選択の基準はありますか？（2. 大学・学部選択の基準はより明確になりましたか？）」「3-1. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか？」「4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか？」の定量分析（相関比較分析）



講義実施後の上記設問1、2の回答の比較

考察：

講義実施前後での質問のニュアンスが異なるため、進路選択の前後比較において増減の考察は難しい。しかし講義による進路選択の効果が高いほど、「Uターン希望」「将来の居住希望」に緩やかな相関が観察されることから、講義の効果はここからも高校生の地元定着に有効であったことが伺える。

藤島講義実施前	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：藤島前	1.00			
大学学部：藤島前	0.57	1.00		
Uターン：藤島前	0.01	0.09	1.00	
住む：藤島前	-0.01	0.02	0.74	1.00
藤島講義実施後	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：藤島後	1.00			
大学学部：藤島後	0.65	1.00		
Uターン：藤島後	0.27	0.28	1.00	
住む：藤島後	0.23	0.21	0.76	1.00
敦賀講義実施前	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：敦賀前	1.00			
大学学部：敦賀前	0.70	1.00		
Uターン：敦賀前	0.05	0.04	1.00	
住む：敦賀前	-0.08	-0.04	0.56	1.00
敦賀講義実施後	文理	大学学部	Uターン	住む
文理：敦賀後	1.00			
大学学部：敦賀後	0.68	1.00		
Uターン：敦賀後	0.12	0.28	1.00	
住む：敦賀後	0.02	0.13	0.62	1.00

講義によって生まれた差は有意か否か？

「3-1. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか？」の定量分析



分析の手法：

ウェルチのt検定（等分散を仮定しない差の検定（対応のない場合））

分析のポイント：

①とても思うを4、②少し思うを3、③あまり思わないを2、④全く思わないを1とおき、講義前後の平均値の変化を分析した。藤島高校（実施前2.67⇒2.96）、敦賀高校（実施前2.84⇒3.25）の講義前後でのポイント上昇は偶然（誤差の範囲）か？それとも効果があったと認められるか？

結果：

p値を見ると、藤島高校では片側6.33×(0.1)の6乗、敦賀高校においても片側1.39×(0.1)の8乗と、共に0.05を下回った。敦賀高校の分散において、講義後に減少が見られた。

考察：

両高校共に、講義によって生まれた差には意味があり、結果の上昇は偶然ではないことが明らかになった（講義の効果が認められた）。またp値の比較から、敦賀高校のほうが藤島高校より、より高い効果があったことが観察される。また藤島高校に比べ敦賀高校のほうが、講義後の平均値が高く、分散（ばらつき）も小さくなっている（上位収斂）。

藤島高校前後比較

t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定

	藤島前	藤島後
平均	2.667832	2.956835
分散	0.601558	0.611848
観測数	286	278
仮説平均との差		
異	0	
自由度	561	
t	-4.40507	
P(T<=t) 片側	6.33E-06	
t境界値 片側	1.647574	
P(T<=t) 両側	1.27E-05	
t境界値 両側	1.964202	

敦賀高校前後比較

t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定

	敦賀前	敦賀後
平均	2.840426	3.254717
分散	0.637501	0.408745
観測数	188	212
仮説平均との差		
異	0	
自由度	358	
t	-5.68055	
P(T<=t) 片側	1.39E-08	
t境界値 片側	1.649121	
P(T<=t) 両側	2.78E-08	
t境界値 両側	1.966613	

講義によって生まれた差は有意か否か？

「4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか？」の定量分析



分析の手法：

ウェルチのt検定（等分散を仮定しない差の検定（対応のない場合））

分析のポイント：

問いに対する肯定度合い（1～10）に関し、講義前後の平均値の変化を分析した。藤島高校（実施前5.32⇒5.67）、敦賀高校（実施前5.70⇒6.43）の講義前後でのポイント上昇は偶然（誤差の範囲）か？それとも効果があったと認められるか？

結果：

p値を見ると、藤島高校では片側0.040、敦賀高校においては片側0.001と、共に0.05を下回った。敦賀高校の分散において、講義後に減少が見られた。

考察：

両高校共に、講義によって生まれた差には意味があり、結果の上昇は偶然ではないことが明らかになった（講義の効果が認められた）。またp値の比較から、敦賀高校のほうが藤島高校より、より高い効果があったことが観察される。また藤島高校に比べ敦賀高校のほうが、講義後の平均値が高く、分散（ばらつき）も小さくなっている（上位収斂）。

藤島高校前後比較

t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定

	藤島前	藤島後
平均	5.326671	5.679856
分散	5.940719	5.352012
観測数	286	278
仮説平均との差		
異	0	
自由度	562	
t	-1.75541	
P(T<=t) 片側	0.039867	
t境界値 片側	1.647569	
P(T<=t) 両側	0.079735	
t境界値 両側	1.964194	

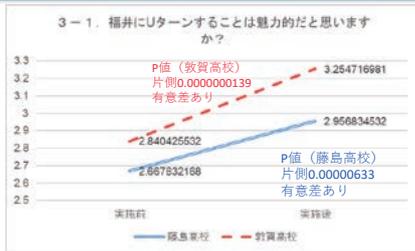
敦賀高校前後比較

t検定：分散が等しくないと仮定した2標本による検定

	3	7
平均	5.700535	6.431292
分散	6.060376	4.965657
観測数	187	212
仮説平均との差		
異	0	
自由度	378	
t	-3.09267	
P(T<=t) 片側	0.001065	
t境界値 片側	1.648895	
P(T<=t) 両側	0.002131	
t境界値 両側	1.96626	

検定まとめ

「3-1. 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?」の定量分析
 「4. 将来的に、福井に住む・暮らすということは、あなたの中の選択肢にどれくらいありますか?」の定量分析 (検定)



藤島高校前後比較
 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定

敦賀高校前後比較
 t-検定: 分散が等しくないと仮定した2標本による検定

藤島前	藤島後	敦賀前	敦賀後
平均 2.667832	2.956835	平均 2.840426	3.254717
分散 0.601558	0.611848	分散 0.637501	0.408745
観測数 286	278	観測数 188	212
仮説平均との差異 0		仮説平均との差異 0	
自由度 561		自由度 358	
t -4.40507		t -5.68055	
P(T<=t) 片側 6.33E-06		P(T<=t) 片側 1.39E-08	
t境界値 片側 1.647574		t境界値 片側 1.649121	

藤島前	藤島後	3	7
平均 5.328671	5.679856	平均 5.700535	6.431292
分散 5.940719	5.352012	分散 6.060376	4.965657
観測数 286	278	観測数 187	212
仮説平均との差異 0		仮説平均との差異 0	
自由度 562		自由度 378	
t -1.75541		t -3.09267	
P(T<=t) 片側 0.039867		P(T<=t) 片側 0.001065	
t境界値 片側 1.647569		t境界値 片側 1.648895	

福井にUターンする魅力について (実施前)

「3-2. 『福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?』の理由を教えてください」の定性分析



分析の手法:

テキストマイニング: 対応分析 (最小出現数 5)

分析のポイント:

「3-1 福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?」の理由について、3-1での選択①とも思う、②少し思う、③あまり思わない、④全く思わない、とそれぞれ回答した高校生が、どのような理由を述べているかの特徴を分析した。

結果:

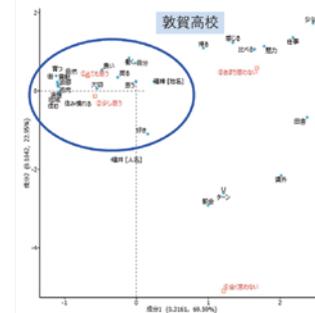
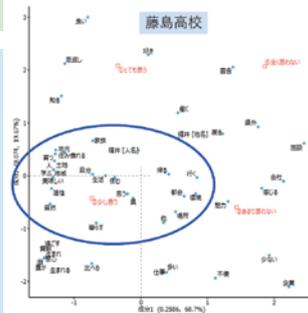
対応分析表のとおり

考察:

藤島高校では①の回答に集中した言葉は少ないものの②のやや肯定的な回答では、「住み慣れる」「美味しい」「育つ」などの回答が見られる。

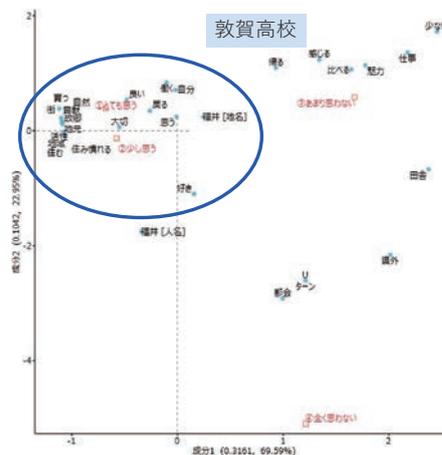
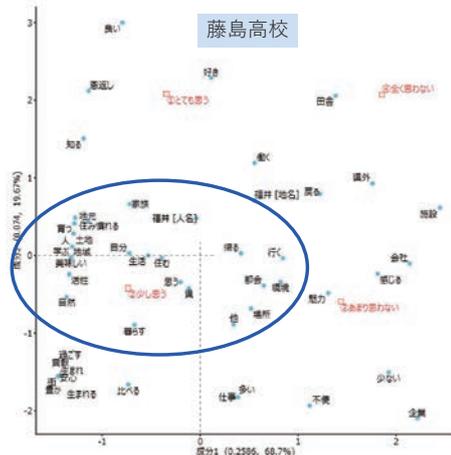
敦賀高校では①②と肯定的な回答には、「育つ」「貢献」「住み慣れる」のように地元志向が強く感じられる。

よって、講義前ではUターンが魅力的であるかの問いに対しての理由が、他の県や働き方を意識した回答ではなく、地元で住み慣れていることが大きな理由となっている。一方で、否定的な回答から、田舎、会社、仕事をデメリットと捉えていることがわかる。



福井にUターンする魅力について (実施前、拡大)

「3-2. 『福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?』の理由を教えてください」の定性分析



福井にUターンする魅力について（実施後）

「3-2. 『福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?』の理由を教えてください」の定性分析



分析の手法：

テキストマイニング：対応分析（最小出現数5）

分析のポイント：

「3-1福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?」の理由について、3-1での選択①とても思う、②少し思う、③あまり思わない、④全く思わない、とそれぞれ回答した高校生が、どのような理由を述べているかの特徴を分析した。

結果：

対応分析表のとおり

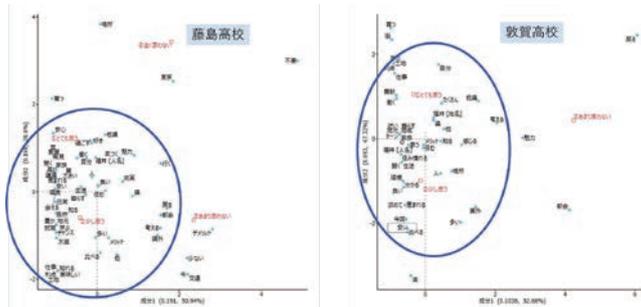
考察：

藤島高校では①②と肯定的な回答には、「チャンス」「就職」「発見」のように、地域に対して前向きな発言が目立った。

敦賀高校では①②と肯定的な回答には、「仕事」「利点」「働く」のように同じく就業をイメージした前向きな言葉が特徴として見られた。

よって、講義後ではUターンが魅力的であるかの問いに対し、地域企業（同友会）による講義が友好的に働いているといえる。講義後には、同問いに対する否定的な回答も減ったことが特徴である。

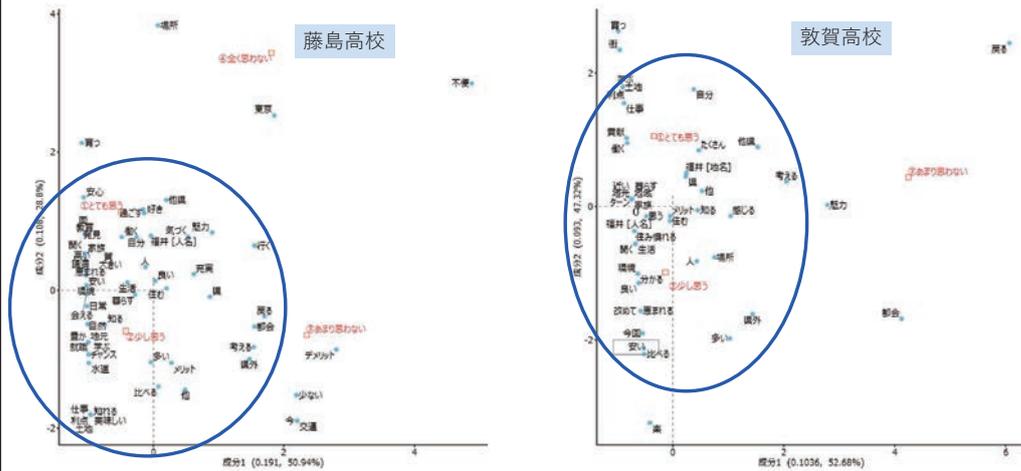
講義により学生が福井県で働くメリットを知ったといえる。



次のページの拡大図を参照

福井にUターンする魅力について（実施後、拡大）

「3-2. 『福井にUターンすることは魅力的だと思いますか?』の理由を教えてください」の定性分析



福井経済同友会による講演について

「5. 今回の講演を聞くにあたって、質問してみたいことがありましたら教えてください。」

「5. 今回の講演を聞いた感想を教えてください。」の定性分析



分析の手法：

テキストマイニング：共起ネットワーク（講義前：最小出現数3、講義後最小出現数10）

分析のポイント：

講義前「5. 今回の講演を聞くにあたって、質問してみたいことがありましたら教えてください。」および講義後「5. 今回の講演を聞いた感想を教えてください。」に対し、両高校を合わせ、高校生の興味や関心のキーワードを分析した。

結果：

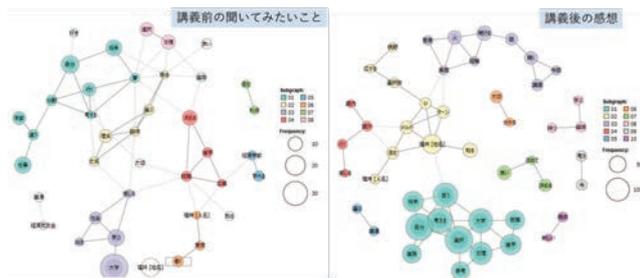
共起ネットワーク表のとおり

考察：

講義前では大学で学ぶこと、将来や仕事に関することなどを、漠然とした内容を聞いてみたいという要望が見られた。

講義後の感想では「大学」「進学」「就職」を合わせた考えや、「福井」に「住む」「知る」「メリット」という語句が関係するなど、進学と就職、そしてその後の地元就職への意識が醸成されていることがわかる。同時に、このような講演から「経験」や「話」を「聞ける」という効果も高校生が感じていることがわかる。

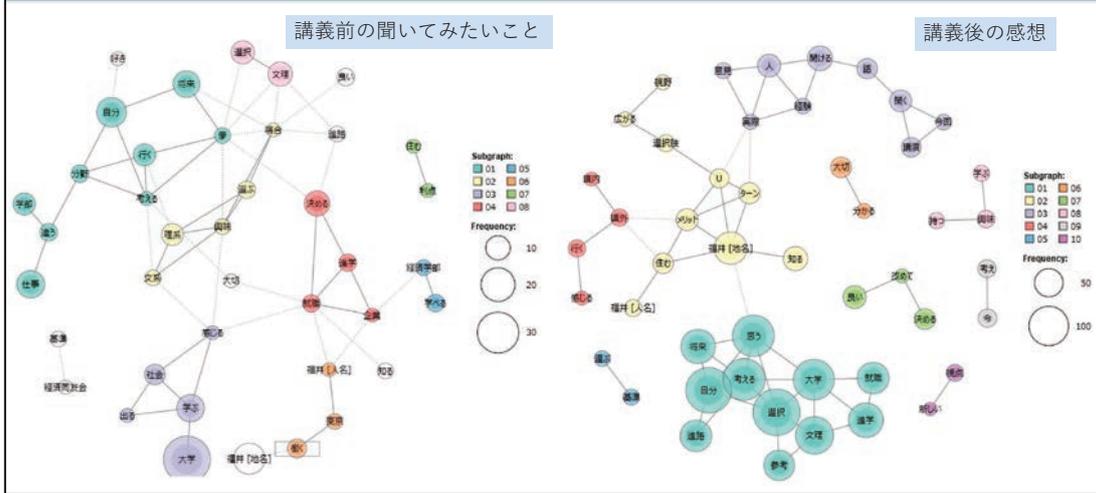
福井に大学卒業後に戻ることに対して好意的に考える高校生が講義前と比べ増加しており、講義では話す人の経験から地域で働くことのメリットとなる話を聞かせることがUターンの決め手といえる。



次のページの拡大図を参照

福井経済同友会による講演について (拡大図)

「5. 今回の講演を聞くにあたって、質問してみたいことがありましたら教えてください。」
「5. 今回の講演を聞いた感想を教えてください。」の定性分析



高校生の進学意識に与えた影響について

「6. 進学にあたって、今、あなたが一番大切にしていることは何ですか?」の定性分析



分析の手法:

テキストマイニング: 抽出後リスト

分析のポイント:

講義前「6. 進学にあたって、今、あなたが一番大切にしていることは何ですか?」について、両高校を合わせ、高校生の意識に講演がどのような変化をもたらしたかを分析した。

結果:

抽出後リストのとおり

考察:

講義後では、「興味」や「学部」という言葉が上位にあがっており、講演を聞いたことにより、具体的にやりたいことが定まる方向になったことがわかる。一方で「勉強」や「学力」という言葉が順位を下けていることから、日々の学習以外にも視野が広がったことが伺える。

また「自分」という語句の出現数が大幅に増加しており、このことから高校生が講演により、将来のキャリアをより自分事として捉えるようになったと考えられる。

以上より、講演が高校生の進学意識にも影響を与えたことがわかる。



企業に魅力について

「7. 高校生として、どのような姿勢の企業に魅力を感じますか?」の定性分析



分析の手法:

テキストマイニング: 抽出後リスト、共起ネットワーク (最小出現数5)

分析のポイント:

「7. 高校生として、どのような姿勢の企業に魅力を感じますか?」(講義後のみの質問)の両高校を合わせた頻出語句を集計し考察した。

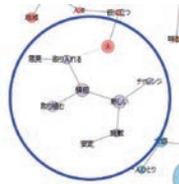
結果:

抽出後リスト、共起ネットワークのとおり

Rank	名詞	Count	サ変名詞	Count	形容動詞	Count
1	企業	266	仕事	20	大切	18
2	社員	58	貢献	15	前向き	16
3	姿勢	53	関係	12	自由	9
4	会社	42	挑戦	11	ホワイト	5
5	積極	30	残業	10	安定	5
6	社会	25	生活	10	色々	5
7	自分	20	従業	8	大事	5
8	環境	18	努力	8	必要	5
9	地域	17	尊重	7	平等	4
10	個人	10	チャレンジ	6	好き	3

考察:

講義後に取られた本質問への回答では、抽出後リストでは「姿勢」「積極」「新しい」「社会」といった、比較的ベンチャーマインド的な言葉に近いものに高校生は共感を得ていることがわかった。共起ネットワークにおいて、それらの言葉の関係性が見て取れた。



IV. 人づくり委員会の活動経過

第1回運営委員会

日 時 2021年6月1日(火)
会 場 福井経済同友会事務局 会議室
テーマ 今後の委員会活動について
参 加 11名

第1回企画委員会

日 時 2021年7月12日(月)
会 場 株式会社日本ピーエス本社
テーマ 1. 北陸新幹線橋梁建設現場視察
2. 2019年度及び2020年度の活動について
3. 活動概要(案)について
4. 活動内容について意見交換
参 加 17名

第2回企画委員会

日 時 2021年10月5日(火)
会 場 ビアンモア大手ビル
テーマ Fターン小委員会・社員交流小委員会
参 加 13名

第3回企画委員会

日 時 2021年11月16日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 1. Fターン小委員会・社員交流小委員会
2. 高大連携による地域人材育成事業への協力について
参 加 16名

第1回Fターン小委員会企画委員会

日 時 2021年12月15日(水)
会 場 福井経済同友会事務局
テーマ 1. 活動報告
2. 出前授業の内容について
参 加 6名

第4回企画委員会

日 時 2022年1月18日(火)
会 場 織協ビル
テーマ Fターン小委員会・社員交流小委員会の意見交換
参 加 15名

第5回企画委員会

日 時 2022年3月16日(水)
会 場 織協ビル
テーマ Fターン小委員会・社員交流小委員会の意見交換
参 加 13名

第1回若手社員交流会

日 時 2022年4月5日(火)
会 場 パレスホテル 鳳凰の間
参 加 社員22名、会員9名、事務局2名

第2回若手社員交流会

日 時 2022年5月17日(火)
会 場 織協ビル
参 加 社員20名、会員6名、事務局1名

第3回若手社員交流会

日 時 2022年6月14日(火)
会 場 織協ビル
参 加 社員20名、会員9名、事務局2名

第6回企画委員会

日 時 2022年5月17日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 社員交流小委員会、Fターン小委員会
参 加 9名

Fターン小委員会 第2回企画委員会

日 時 2022年6月21日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 社員アンケートについて、出前授業内容について
参 加 5名

Fターン小委員会 打ち合わせ

日 時 2022年7月1日(金)
会 場 事務局
テーマ 出前授業講演資料とアンケートの打ち合わせ
参 加 今村副委員長、事務局

Fターン小委員会 出前授業

日 時 2022年7月15日(金)
会 場 敦賀高校
講 師 今村副委員長
参 加 2名、事務局

Fターン小委員会 出前授業

日 時 2022年7月20日(水)
会 場 藤島高校
講 師 今村副委員長
参 加 4名、事務局

Fターン小委員会 教員との意見交換

日 時 2022年7月22日(金)
会 場 藤島高校
参 加 5名、教員10名、事務局1名

第7回企画委員会

日 時 2022年8月23日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 社員交流小委員会、Fターン小委員会
参 加 16名

第8回企画委員会

日 時 2022年10月4日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 活動報告書のまとめについて
参 加 15名

第9回企画委員会

日 時 2022年12月8日(木)
会 場 織協ビル
テーマ 活動報告書のまとめについて
参 加 11名

第10回企画委員会

日 時 2023年2月14日(火)
会 場 織協ビル
テーマ 活動報告書のまとめについて
参 加 14名

第11回企画委員会

日 時 2023年3月13日(月)
会 場 織協ビル
テーマ 活動報告書の委員会案について
参 加 16名

<福井経済同友会 人づくり委員会>

委員長

有馬 浩史 株式会社日本ピーエス 代表取締役社長

副委員長

竹村 浩和 野村証券株式会社 福井支店 支店長
今村 善信 大電産業株式会社 代表取締役社長

社員交流小委員会企画幹事

伊橋 美信 日本生命保険相互会社 福井支社 支社長
小玉 隆一 アズワンコンサルティング株式会社 代表取締役・社労士
佐竹 新 オリックス株式会社 福井支店長
白江 文夫 セコム北陸株式会社 福井統轄支社 統轄支社長
玉木 洋 福井キャノン事務機株式会社 代表取締役会長
中道 正康 ネットヨタ福井株式会社 代表取締役社長
花島 信 福井大学 理事・事務局長
堀内 康代 株式会社トゥー・アー・ティ 代表取締役

Fターン小委員会企画幹事

井上 繁 井上商事株式会社 代表取締役社長
加茂 直人 株式会社カモコン 代表取締役社長
小泉 綾子 松文産業株式会社 代表取締役社長
後藤 正邦 弁護士法人高志法律事務所 代表 社員
嶋田 俊之 医療法人博俊会 春江病院 理事長
島田 康隆 日本銀行 福井事務所 事務所長
中村 武史 株式会社中村住設 代表取締役
林 豊和 みずほ証券株式会社 福井支店 支店長

アドバイザー

竹本 拓治 福井大学 地域創生推進本部 教授

事務局

東山 清和 福井経済同友会 専務理事・事務局長
竹下 悟史 福井経済同友会 事務局次長

V. おわりに

先日、小学校4年生の娘が授業で披露するSDGsの発表練習をしていた。私たちの時代に環境について学んだ記憶はあまりないが、今の時代は若い頃からしっかりと環境問題を勉強している。この環境や多様な社会について学んだ子どもたちが、これからどんどん社会人になっていく。迎える私たちも、もっと若者の話を聞き学ぶべきではないだろうか。「若手社員交流会」のプレゼンテーションを聞いてもそう思った。

厚生労働省は、2022年の出生数が80万人を割ったと発表した。日本経済を成長させるためにも高齢化社会を支えていくためにも、若い世代が結婚や出産に前向きになれる社会を築いていかなければならない。

今回の「人づくり委員会」の取り組みを通じて、学生や若い社員を育てることが結果的に企業を、そして福井県を元気にすることを学んだ。

「幸福度日本一」の福井県で、結婚や出産に前向きになれる環境を作り、その子どもたちが勉強して福井県に帰ってきて、福井県内企業をしっかりと支えてくれるような好循環が実現できるのではないか。

そのために、福井経済同友会「人づくり委員会」は、若手社員には働く楽しさを伝え、学生には早い段階から、「働くことを考えることは、暮らすことを考えることでもある。」このことをしっかりと伝えていきたい。

最後にアンケートにご協力いただいた福井経済同友会会員企業、福井県庁の皆様。データの取りまとめにご尽力いただいた福井大学竹本教授、竹本研究室の皆様、そして、高い心理的安全性の中で、素晴らしいパフォーマンスを発揮していただいた「人づくり委員会」の皆様にご感謝申し上げます。本当に有難うございました。

福井経済同友会 人づくり委員会
委員長 有馬 浩史

